



2025年8月26日

日本鉄道労働組合連合会

被爆80年

連 合 2025 平 和 ナ ガ サ キ 集 会

～語り継ぐ戦争の実相と運動の継承で核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう～

日本労働組合総連合会（連合）は8月8日、長崎市内で「2025 平和ナガサキ集会」を開催し、全国から2,054名の関係者が結集した。JR連合からは住吉一家労働政策局長のほか、JR九州労組から総勢30名近くの役員・組合員らが参加した。

集会の冒頭、戦争・原爆の被害にあった全ての犠牲者に黙とうを捧げた。

主催者を代表してあいさつした芳野友子会長は、ウクライナや中東情勢に触れ、世界では今なお戦争により尊い命が失われている事実を嘆いた。そして、「核兵器廃絶と世界の恒久平和への想いを共有し、運動につなげていこう」と参加者に呼びかけた。

9歳で被爆した（公財）長崎平和推進協会の羽田麗子継承部長は、自らが経験した悲惨な実相を丁寧に語り、二度と戦争を繰り返してはならないとの想いを訴えた。また、ユース代表団、高校生平和大使らは、核兵器廃絶や世界の恒久平和の実現を目指した



連合2025平和ナガサキ集会

活動を報告するとともに、被爆者の体験を継承し国際社会に訴えるのは「いつかではなく今しかない」とのメッセージを発信した。

JR連合は連合の平和行動に連帯・参画し、世界平和の実現に向けて取り組んでいく。



JR連合・JR九州労組からの参加者